

<応用実習の内容>

①保育への参加・記録

保育の基本は、一人ひとりの幼児をよく理解することです。毎日保育に加わり、視点を決めて幼児を見ていくことが大切です。

保育後には、学級全体と幼児個人（全員分）について、専用のノートに記録します。

②環境整備・保育の準備

幼児の登園前と降園後に、分担して園内を清掃します。

保育後は、翌日の準備を担当と一緒にいきます。その際、教材の意図等も確かめておくようにします。

③観察実習

実習中に二日間行います。配属学級以外も観察し、記録を取ります。

一日目は、年齢ごとの幼児の実態把握について、二日目は、実態に応じた指導について観察します。

④部分実習

実習生が一人で部分的な指導（食事場面、お話をする場面、遊びの場面の三回）を行います。

事前に担任と相談しながら指導案を作成し、指導後には振り返って考察したり、他の実習生と共に反省会を行ったりします。

⑤全日実習（研究保育）

指導内容と方法を吟味し、前日までに指導案の作成と教材の準備を終えます。

実習中は、とっさの判断も要求されますが、責任をもって対処します。保育後は、全体で研究協議を行います。

⑥その他

遠足の引率や、園全体の集いで行う影絵の企画や実施といった行事に取り組みます。

ピアノでの弾き歌いとして、二曲程度の課題曲があります。実習期間中は、教材研究等があり、ピアノ練習に時間を当てられませんので、実習開始前によく練習し、曲や歌詞の魅力をつかんでおきます。